

# 1

## 教員・授業・勉強・ 研究について

### 授業への興味 ..... 8

学生の約9割が授業に興味がある

授業に興味がある「ある」、「ややある」学部学生 88.8% 大学院学生 94.5%

### 教員との対話 ..... 10

学部学生の約4割しか教員と対話していない

教員と対話を「している」、「たまにしている」学部学生 37.4% 大学院学生 83.1%

### 授業出席率 ..... 11

6割程度の学生が90%以上の出席率

「90%以上出席している」学部学生 56.6% 大学院学生 69.9%

### 授業の満足度 ..... 12

授業の満足度は低い

満足できる授業の割合が「80～100%」学部学生 7.1% 大学院学生 24.5%

### 授業選択の重要要素 ..... 14

授業選択の重要要素はまず内容

授業選択の重要要素が「授業内容」学部学生 83.6% 大学院学生 90.8%

### 授業以外にする研究・勉強時間 ..... 15

勉強時間は少ない

週平均「0～5時間」学部学生 45.5% 大学院学生 14.0%

### 将来への有益性 ..... 16

授業や研究・勉強は将来役に立つと考えている学生は多い

役に立つと「思う」、「やや思う」学部学生 77.2% 大学院学生 90.4%

### 図書館等の利用 ..... 18

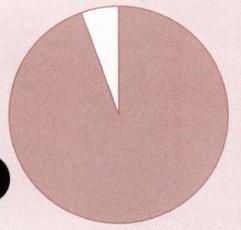
図書館の利用頻度は高くない

「ほぼ毎日」、「週に2～3日」の合計 学部学生 48.4% 大学院学生 46.3%





# 学生の約9割が 授業に興味がある



## 授業への興味



授業に興味がある、「ややある」  
学部学生 **88.8%** 大学院学生 **94.5%**

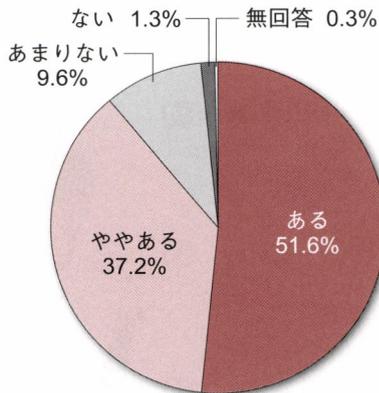
学部学生では、授業に興味がある、「ややある」と答えた比率は90%弱でした。一方、大学院学生では、「ある」、「ややある」と答えた比率は約95%でした。多くの学生が授業に興味があると回答しています。

学年別では、1年・2年・4年がほぼ同じ傾向、3年・5年以上がほぼ同じ傾向です。アンケートの時期が5月・6月ですから、3年生の興味が若干低くな

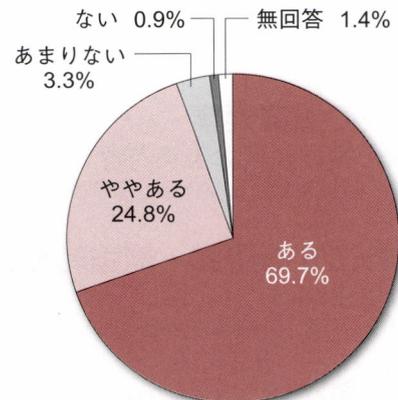
ったのは、2年生の時の授業やその取り組み方に原因があるのかもしれませんが。一方、4年生で興味のある比率が復活しているのは、3年生で学んだ専門科目を受講してこのような結果になったと考えられます。4年生で興味が復活しているのは、専門教育の在り方を考えるとき、望ましいことと言えると思います。

### 大学の授業に興味がありますか？

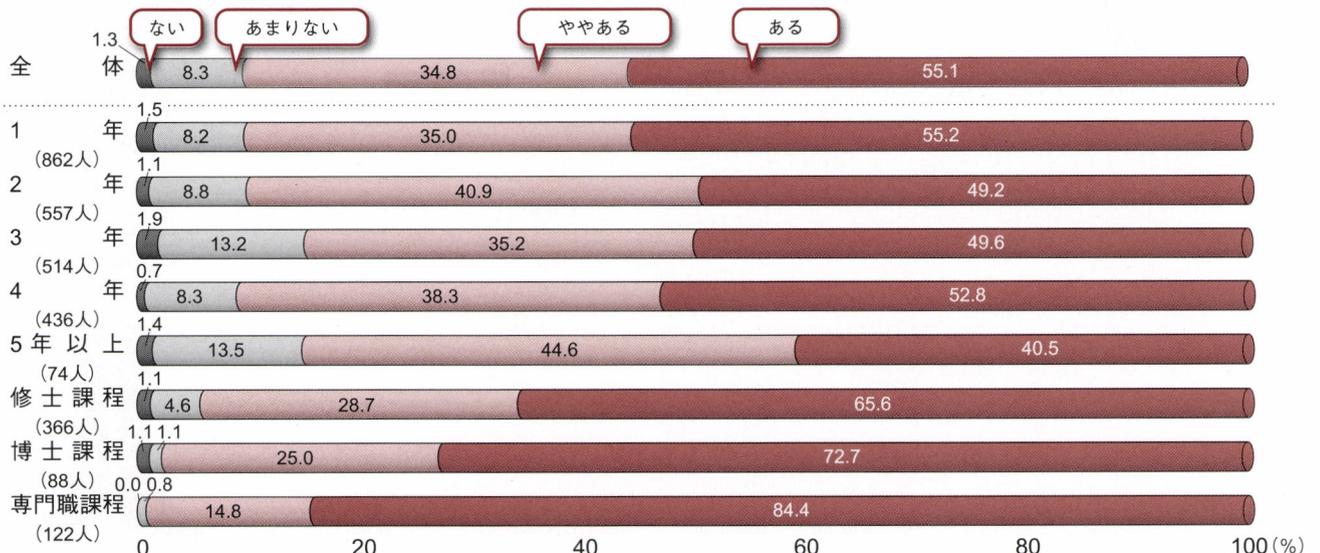
#### 学部



#### 大学院



### 大学の授業に興味がありますか？ 学年別



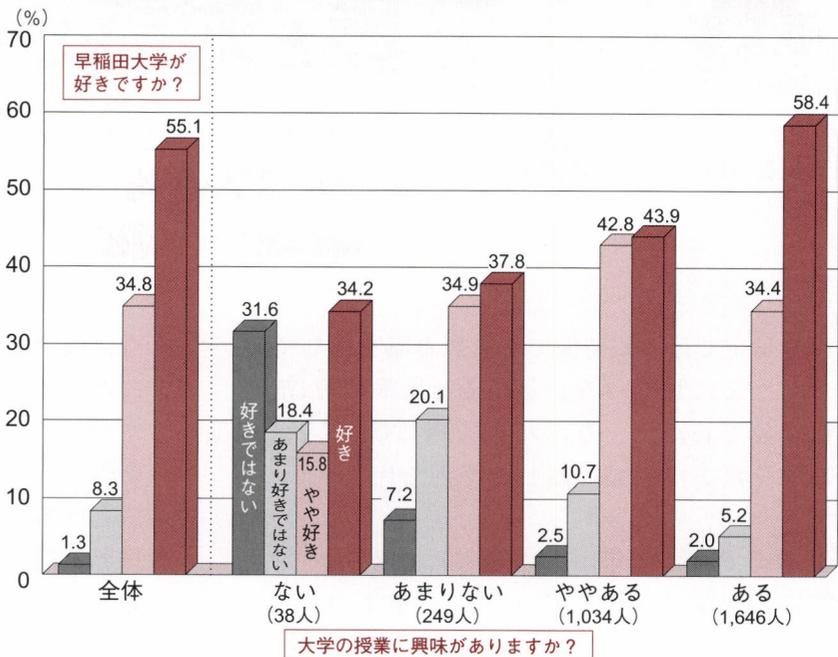
クロス集計

大学の授業に興味がありますか？ 凡例 早稲田大学が好きですか？

授業への興味と早稲田大学が好きかという回答には相関があります。すなわち、興味があると回答している学生ほど、早稲田大学が好きと回答しています。

また、授業に興味があると回答した学生は、早稲田大学を選んだ理由として「教授陣」「教育研究内容・レベル」と回答する比率が他より高くなっています。一方、「知名度・注目度の高さ」の比率は若干低くなっています。授業に興味を持っている学生は教育・研究面での実質的なことを重視していることがうかがえます。

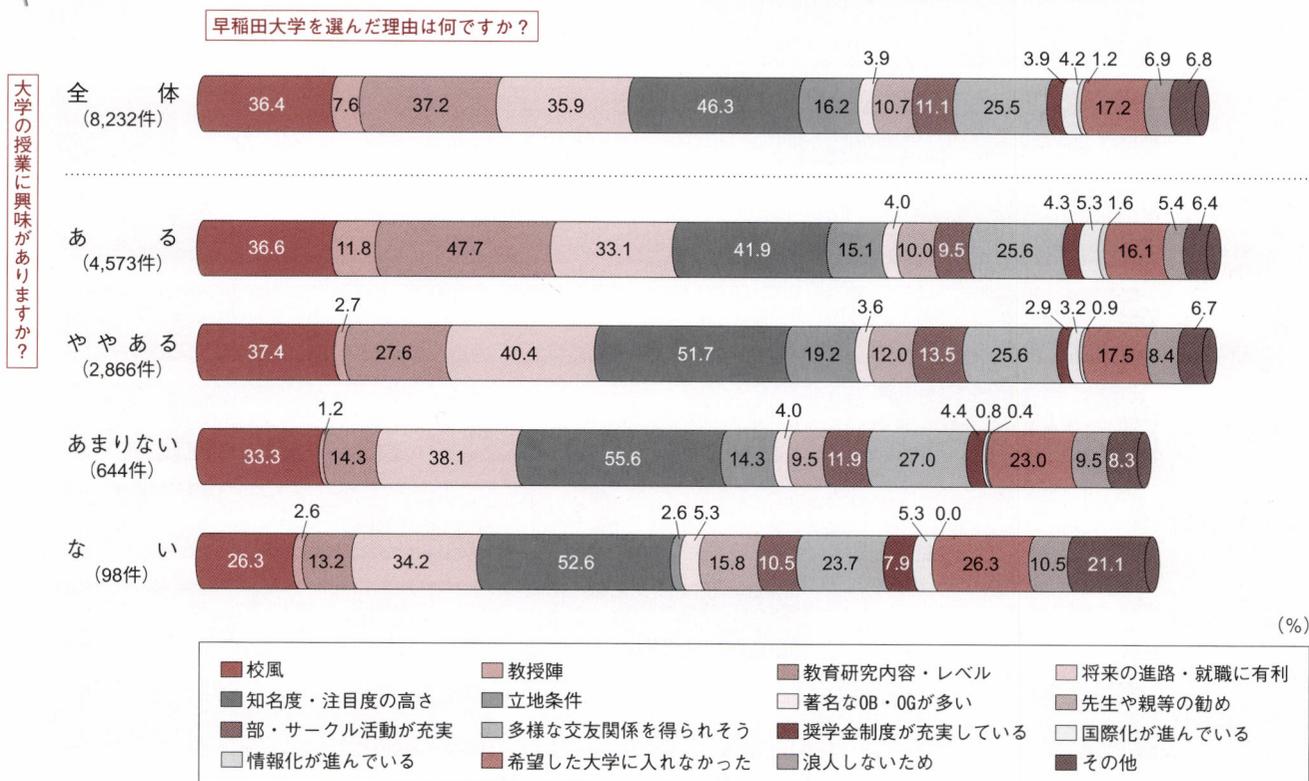
さらに、グラフには示していませんが、授業に興味があると回答した学生は、入学した学部・研究科に満足している比率が高くなっていました。そして、授業に興味があると回答した学生は、大学生活が充実していると回答する比率が高くなっていました。



言うまでもなく、授業は大学の中心的なものです。良い授業を提供すること、学生が興味を持つようにアピールすること、それらを絶えず改善・実践していくことが、学生の期待に応え、学生の満足感や充実感に寄与するものであることがあらためて確認できます。

クロス集計

大学の授業に興味がありますか？ 凡例 早稲田大学を選んだ理由は何ですか？ [複数選択可]





# 学部学生の約4割しか 教員と対話していない

教員との対話



教員と対話を「している」、「たまにしている」  
学部学生 **37.4%** 大学院学生 **83.1%**

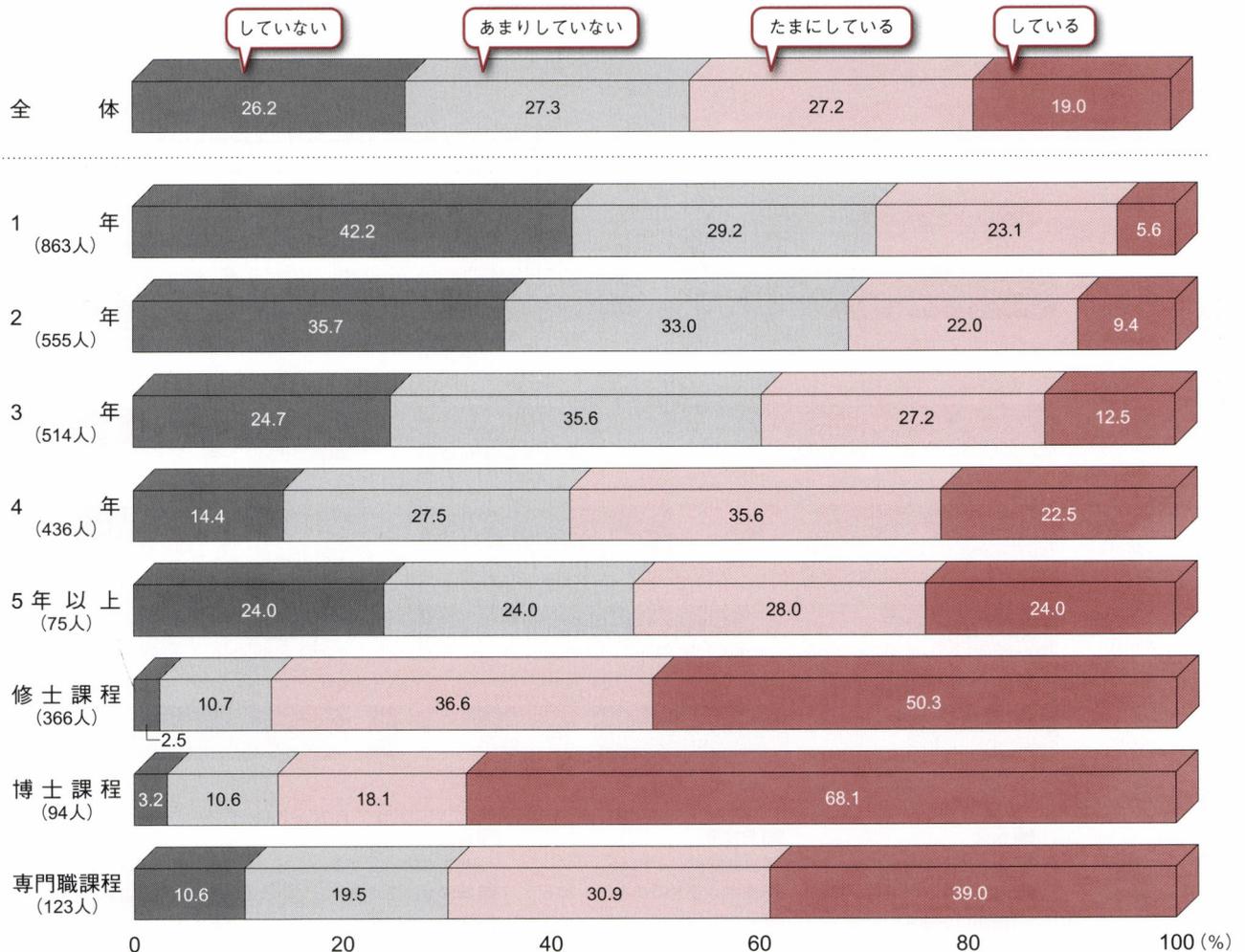
学部学生では、短時間でも教員と話を「している」、「たまにしている」と答えた比率は約4割弱と低い値でした。一方、大学院学生では、「している」、「たまにしている」と答えた比率は8割以上でした。

学年別では、学年が上がるにしたがって対話している比率が上昇しています。1年生の「している」、「たまにしている」の回答比率の合計が28.7%と一番低い値です。アンケートの時期が5月・6月なので、まだ入学して間もないということもあります。しかし、2年生の低い回答比率か

らも、低学年の学生が教員と対話する機会の少ないことが示唆されています。

グラフには示していませんが、教員と対話している学生ほど、入学した学部・研究科に満足していると回答する比率が高くなっていました。また、教員と対話している学生ほど、大学生活が充実していると回答する比率が高くなっていました。そして、教員との対話が多いほど、授業への興味が高くなっていました。教員との対話が授業への関心を高める大切な要素の一つと言えそうです。

短時間でも教員と話をしていますか？ 学年別





# 6割程度の学生が 90%以上の出席率

授業出席率



「90%以上出席している」

学部学生 **56.6%** 大学院学生 **69.9%**

学部学生では、授業平均出席率を「90～100%」、「80～90%未満」、「70～80%未満」と答えた比率はそれぞれ56.6%、17.7%、14.0%でした。一方、大学院学生では、「90～100%」、「80～90%未満」、「70～80%未満」と答えた比率はそれぞれ69.9%、14.0%、7.4%でした。

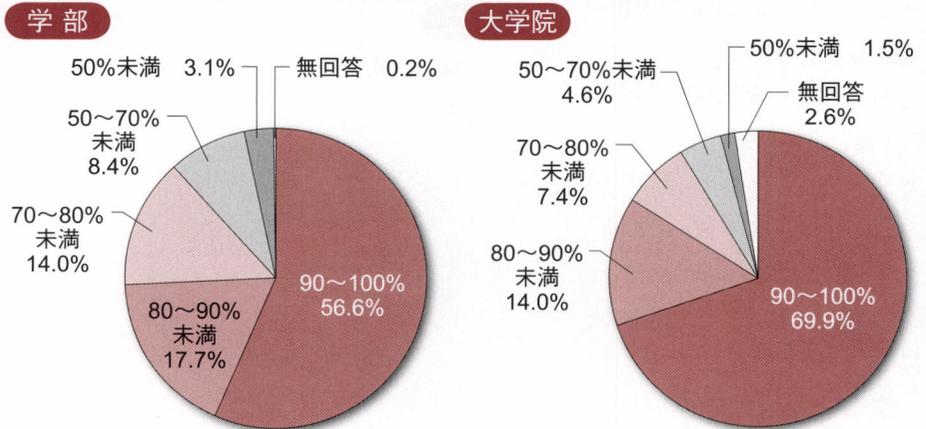
学年別では、学年が上がると平均出席率が減少します。高学年になると、必修科目が少なくなり、授業の選択範囲が広がるからだと思えます。ゼミや研究室での研究に打ち込みながら、必要な授業を聴講するという受講態度が主に反映されているのだと考えられます。

一方で、1年生や2年生であっても、平均出席率

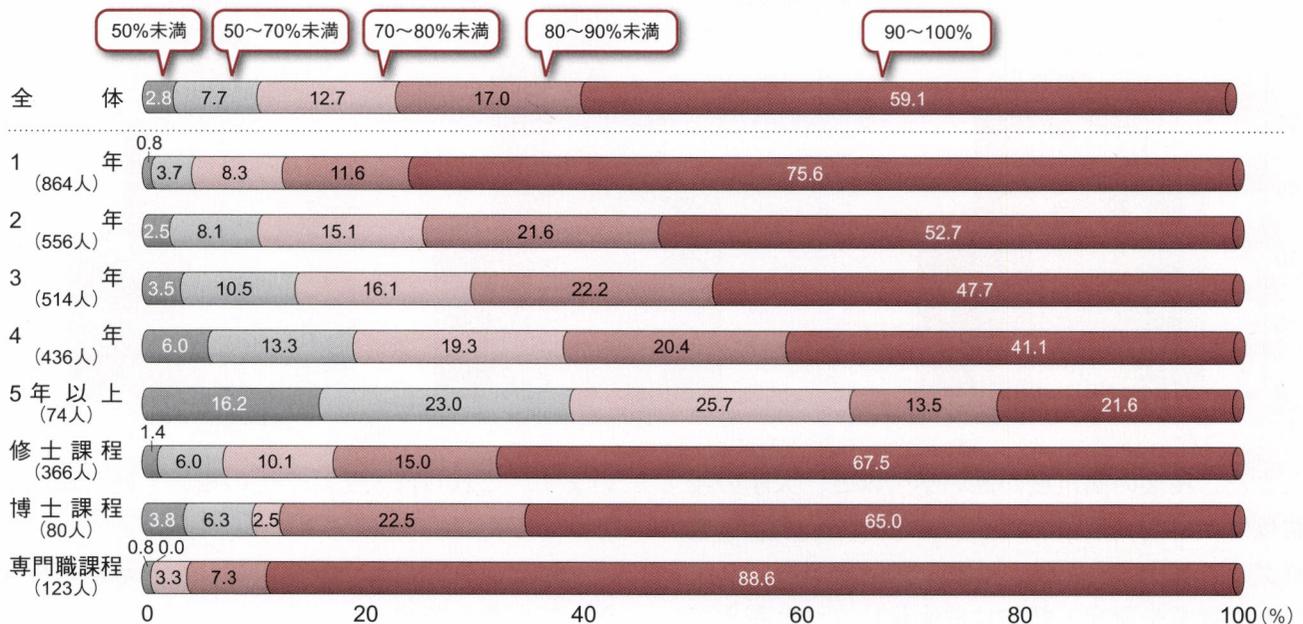
が低い学生がいます。一般的に低学年で授業出席率が低いと留年や退学の確率が高まります。大学での仲間作りにも影響があるかもしれません。

学生の心構えは大切ですが、大学側は、魅力ある授業をどう提供するかを含めて、学生が積極的に授業に出席できる状況を整備することが必要です。

あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？



あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？ 学年別





# 授業の満足度は低い

## 授業の満足度



満足できる授業の割合が「80～100%」  
学部学生 **7.1%** 大学院学生 **24.5%**

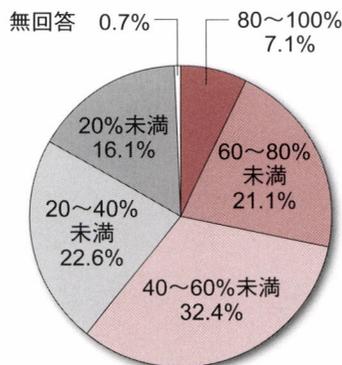
学部学生では、満足できる授業の割合を「80～100%」、「60～80%未満」と答えた比率はそれぞれ7.1%、21.1%でした。一方、大学院学生では、「80～100%」、「60～80%未満」と答えた比率はそれぞれ24.5%、27.9%と、低い値になっています。

文系・理系での違いはほとんどありません。

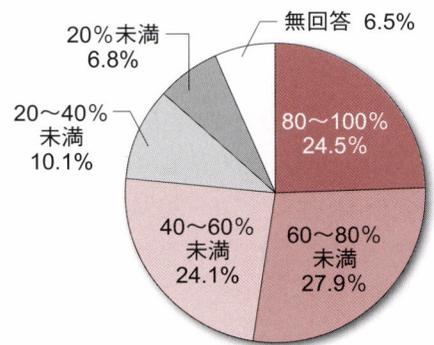
グラフには示していませんが、学部学生の場合には学年による違いはあまりありませんでした。また、満足する割合が高いほど早稲田大学が好き

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

### 学部

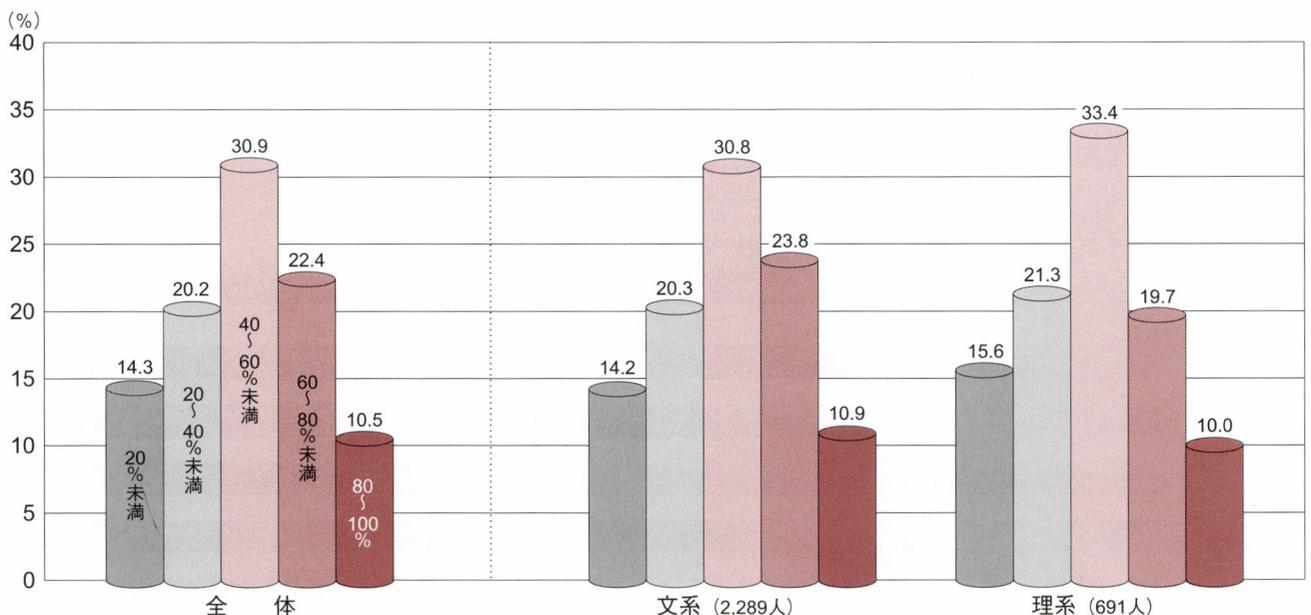


### 大学院



という回答が多くなっています。さらに、満足する割合が高いほど大学生活が充実しているという回答が多くなっていました。

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？ 文系・理系別



また、授業の満足度が高い学生ほど、大学の授業以外の研究・勉強時間が多くなっています（次頁グラフ参照）。また、授業の満足度が高い学生ほど、授業や研究・勉強は将来役に立つと答えて

います。これらは大学院学生の場合も同じ傾向がありました。

やはり、良い授業が学生の将来への意欲につながっていそうです。

すべての授業が満足できる状態であることが理想ですが、それを達成することはなかなか困難です。授業科目の内容の難易、教員の教え方の上手・下手、学生の理解力などにバラツキがありますから、それらのバラツキを吸収しながら、満足度を高めることは難しい課題です。

しかし、その難しい課題を解決していく手段を

検討する必要があります。学生による授業評価が数年前から始まりました。一部の学科では、各教員が分析して、問題点を洗い出し、次年度に向けた改善の方策を検討しています。そういった努力を今後もっと広げていかなければならないでしょう。一方で、学生の皆さんも、授業評価に積極的に参加して、建設的な意見を述べてほしいと思います。

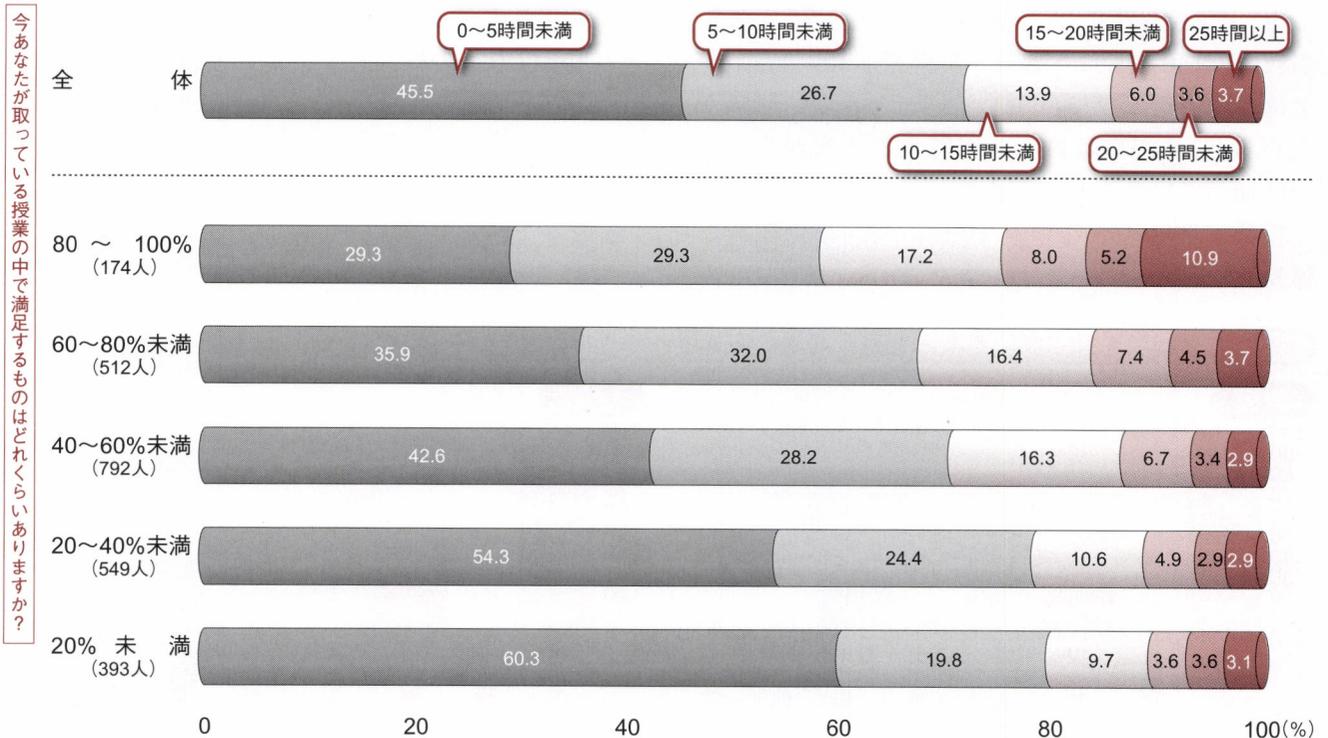
クロス集計

学部

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

凡例 大学の授業以外にする研究・勉強時間は週平均でどれくらいですか？

自宅・図書館・ダブルスクール等で行う、大学の授業以外にする研究・勉強時間

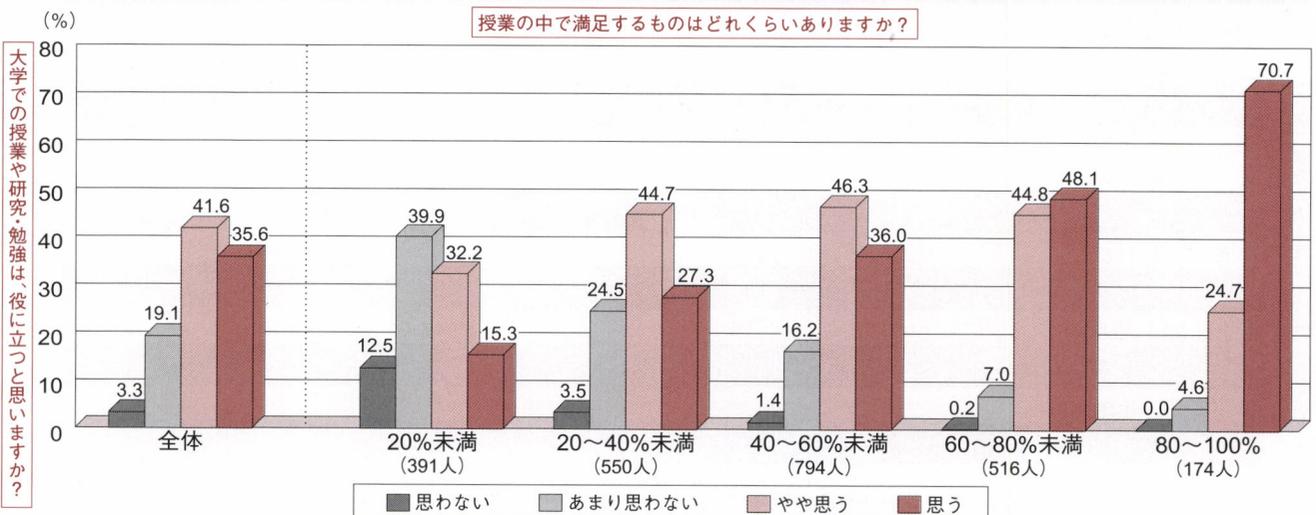


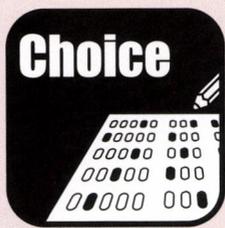
クロス集計

学部

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

凡例 大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？





# 授業選択の重要要素は まず内容

授業選択の  
重要要素



授業選択の重要要素が「授業内容」  
学部学生 **83.6%** 大学院学生 **90.8%**

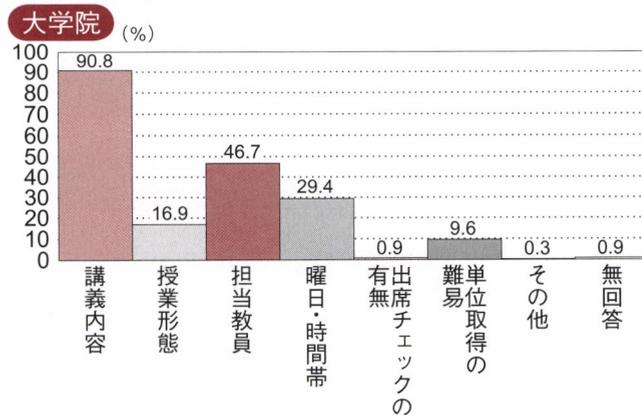
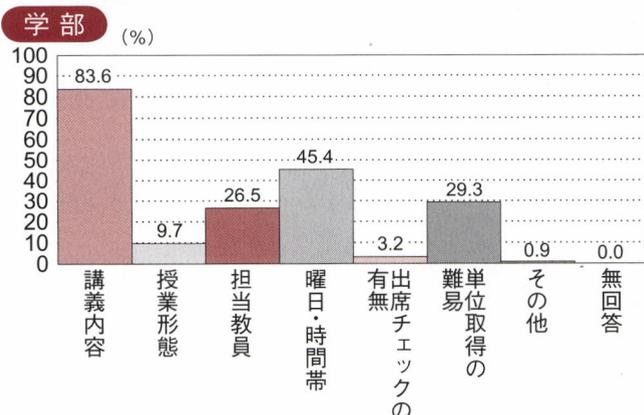
学部学生では、授業選択の重要要素として「講義内容」(83.6%)、「曜日・時間帯」(45.4%)、「単位取得の難易」(29.3%)が上位となっています。一方、大学院学生では、「講義内容」(90.8%)、「担当教員」(46.7%)、「曜日・時間帯」(29.4%)が上位です。グラフには示していませんが、学年が上がると、「担当教員」と回答する比率が少しずつ増加しているようでした。

授業に興味の「ない」学生ほど、「単位取得の難易」を重視しています。また、授業に興味の「あ

る」学生ほど、「講義内容」と「担当教員」を重視しています。大学院学生の場合にもこれらの傾向は見られるものの、学部学生ほどはっきりとはしていませんでした。

「単位取得の難易」という回答は学生の正直な気持ちを表しているのかもしれませんが、しかし、この要素だけで学生に選択されている授業があったとしたら、それは教員にとっても学生にとっても情けないことです。

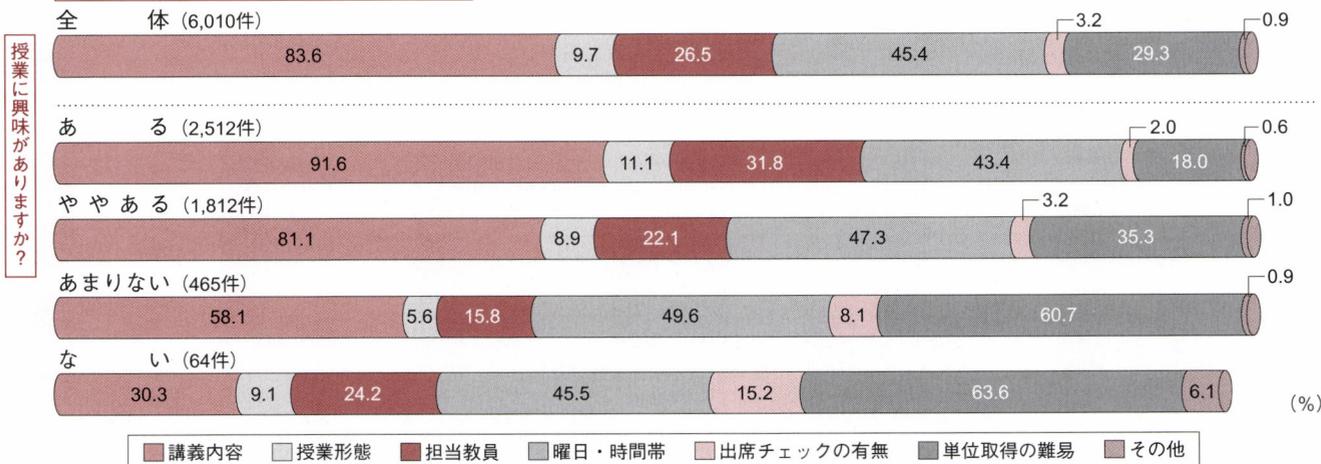
あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？ [複数選択可]

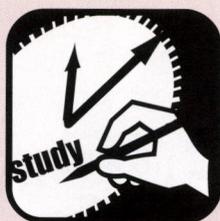


クロス集計

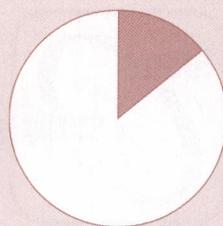
大学の授業に興味がありますか？  
凡例 あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？ [複数選択可]

授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？





# 勉強時間は少ない



授業以外にする  
研究・勉強時間



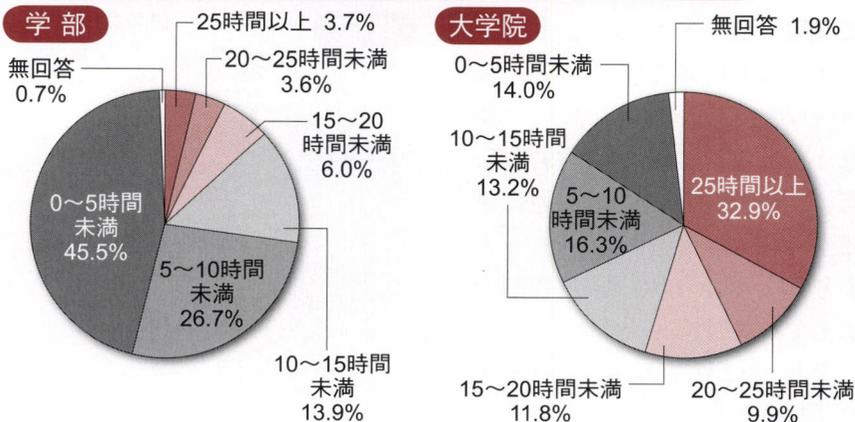
週平均「0~5時間」  
学部学生 **45.5%** 大学院学生 **14.0%**

学部学生では、大学の授業以外にする研究・勉強時間の週平均を「0~5時間未満」、「5~10時間未満」と答えた比率はそれぞれ45.5%、26.7%で、合計すると72.2%です。7割を超える学生が1日1時間程度以下しか勉強していません。一方、大学院学生では、「0~5時間未満」、「5~10時間未満」と答えた比率はそれぞれ14.0%、16.3%で、合計すると30.3%です。

学年別に見てみると、学年が上がれば、勉強時間が若干増加する傾向にあります。それでも、「0~5時間未満」という回答が40%を超えています。大学院学生でさえ、勉強に十分な時間をかけていない人たちが少なからずいます。

グラフには示していませんが、理系と文系を比

自宅・図書館・ダブルスクール等で行う、大学の授業以外にする研究・勉強時間は週平均でどれくらいですか？

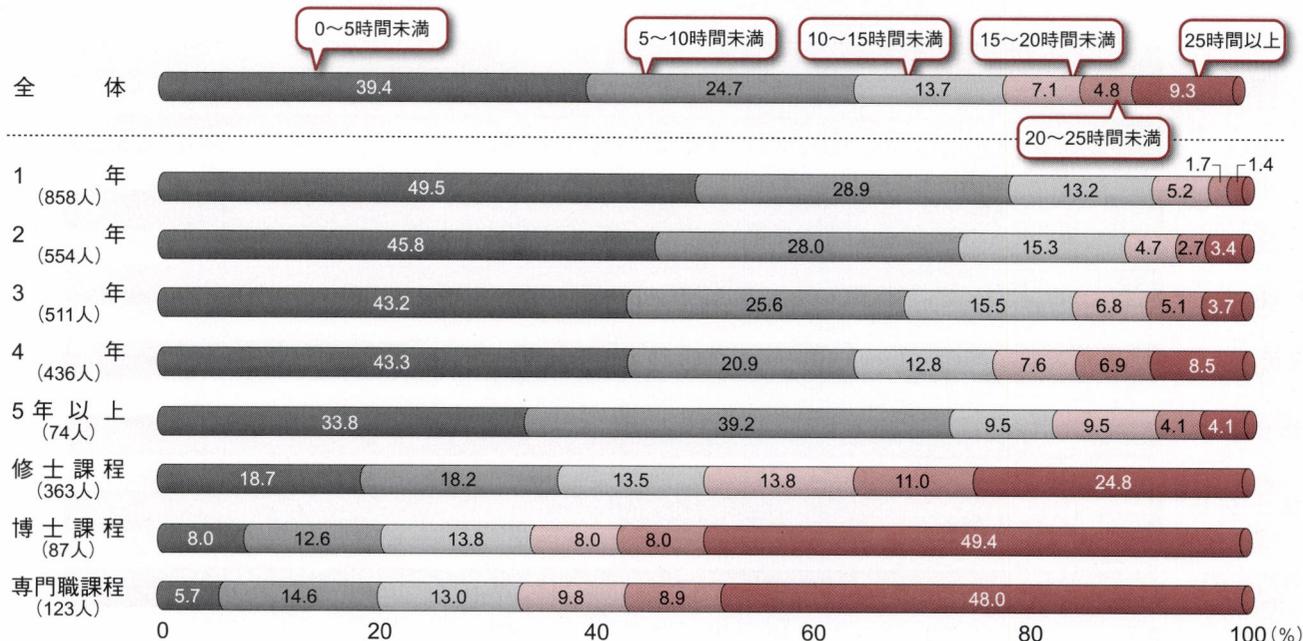


べると、理系の方が勉強時間はわずかに多いようでした。

一概に時間をかければ良いというものではありませんが、人生で一番頭脳明晰な時期に、ゆっくり・じっくりものごとを考えるのは大切なことです。

自宅・図書館・ダブルスクール等で行う、大学の授業以外にする研究・勉強時間は週平均でどれくらいですか？

学年別





# 授業や研究・勉強は将来役に立つと考えている学生は多い

将来への有益性

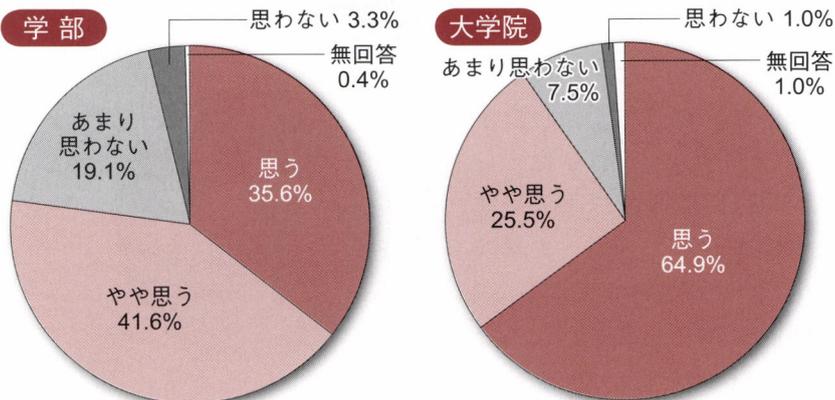


役に立つと「思う」、「やや思う」  
学部学生 **77.2%** 大学院学生 **90.4%**

学部学生では、授業や研究が将来役に立つと思うかについて「思う」、「やや思う」と答えた比率は8割弱です。一方、大学院学生では、「思う」、「やや思う」と答えた比率は約9割で、高い比率です。しかし、逆に学部学生では、「思わない」、「あまり思わない」の比率が2割を超えています。

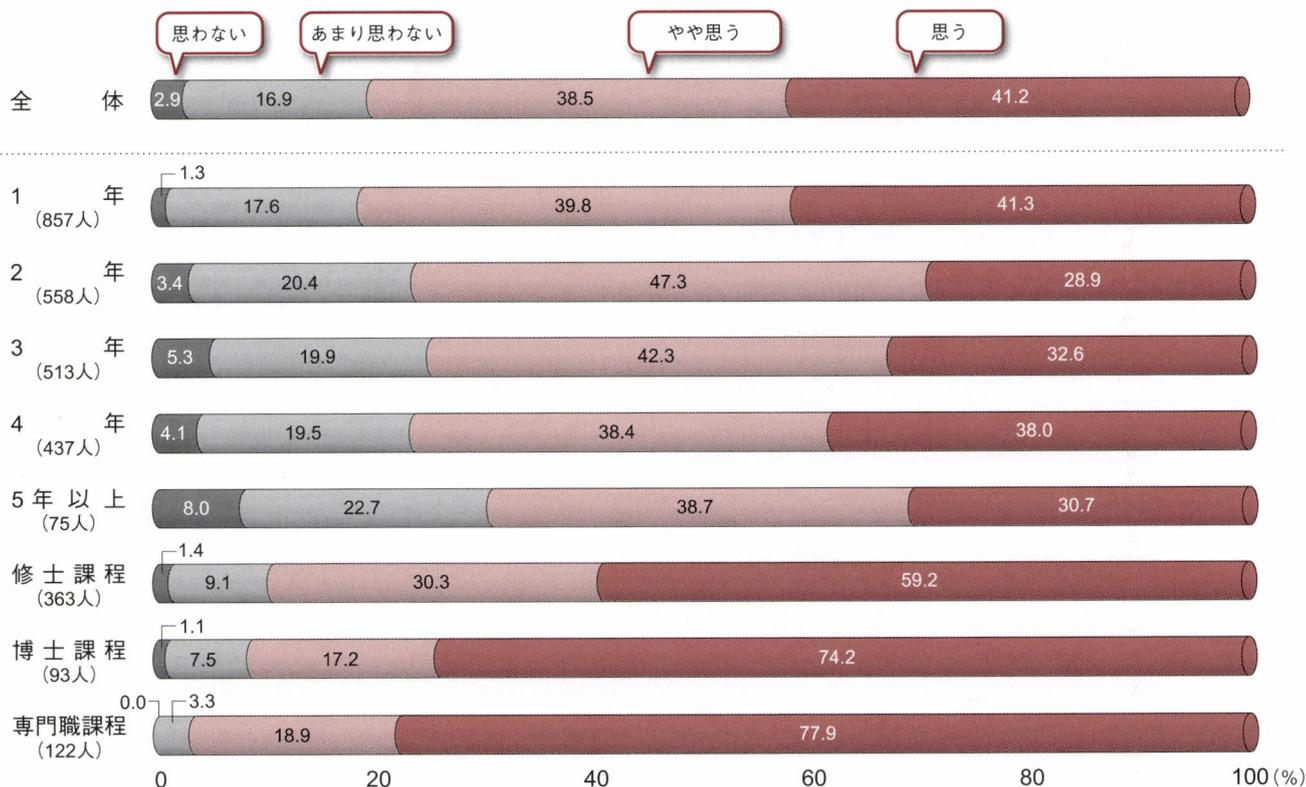
学年別に見てみると、1年生の「思う」の比率が高いのに比べ、2年生の「思う」の比率が下がっています。1年間の大学生活の後でこういう傾向があることは、大学として深刻に受け止める必要があります。

大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？



グラフには示していませんが、文系よりも理系の学生の方が、役に立つと考えている学生は多くなっていました。

大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？ 学年別



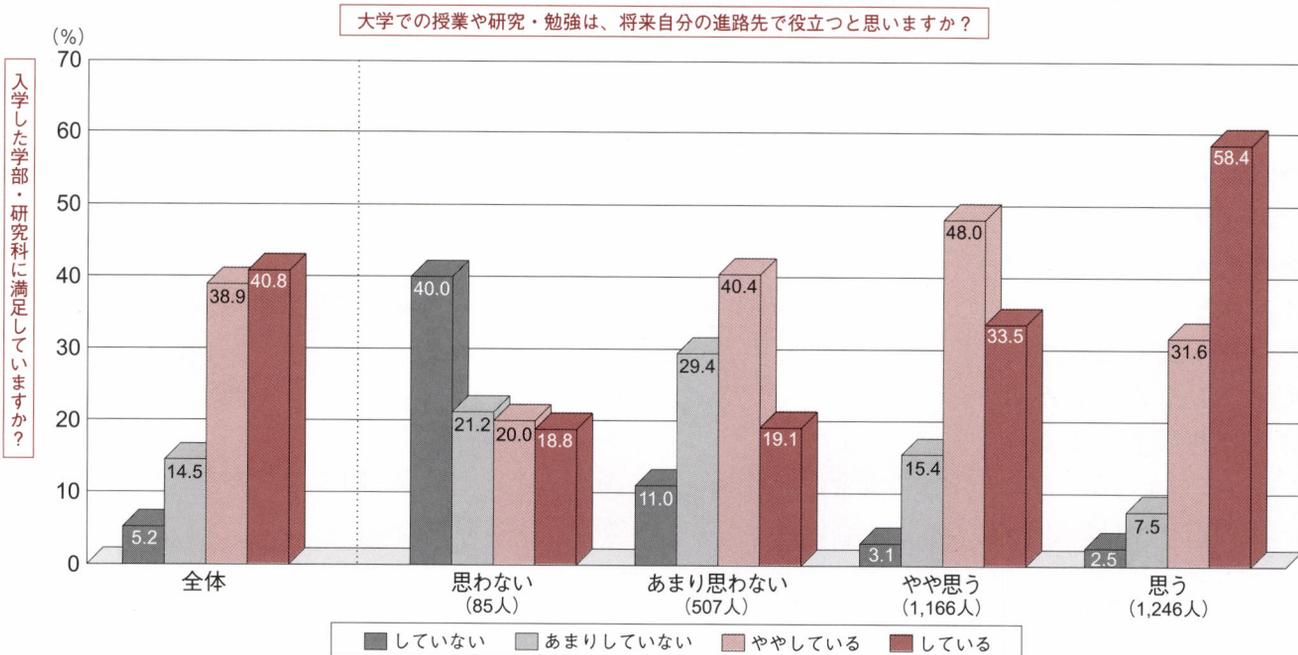
役に立つと考えている学生ほど、入学した学部・研究科に満足しているという回答が多くなっています。また、役に立つと考えている学生ほど、大学生活は充実しているという回答が多くなっています。

グラフには示していませんが、授業への興味と、将来役に立つという項目には相関がありました。すなわち、授業に興味のある学生ほど、将来役に立つと考えています。この思いは大学院学生の方

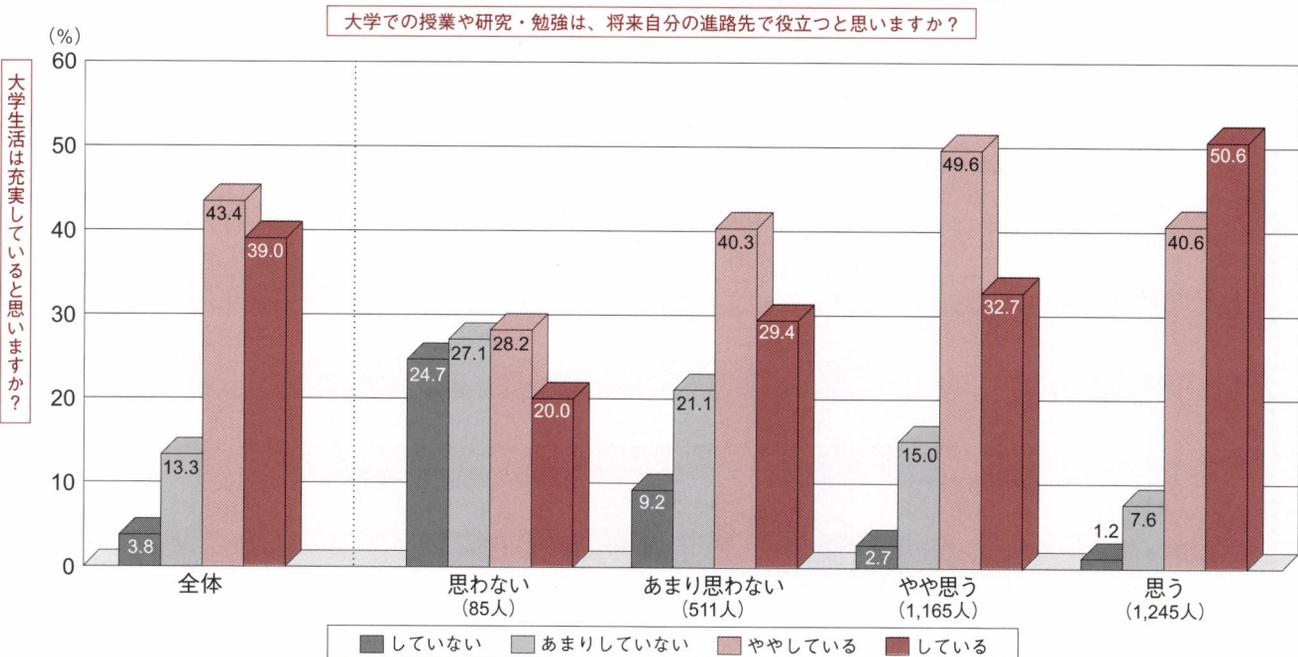
が顕著でした。どちらが原因・結果であるのかを定めることは難しいですが、すべての授業が役に立つと言い切れるものでもないでしょう。しかし、社会とのつながりを意識した授業を心がけることの大切さが分かります。

本章で考察してきたように、どこかを糸口にして、学生の意欲を促し、充実した大学生活を送ってもらう方策を考えていく必要があると思います。

**クロス集計** 大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？  
凡例 入学した学部・研究科に満足していますか？



**クロス集計** 大学での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？  
凡例 大学生活は充実していると思いますか？





# 図書館の利用頻度は 高くない

## 図書館等の利用



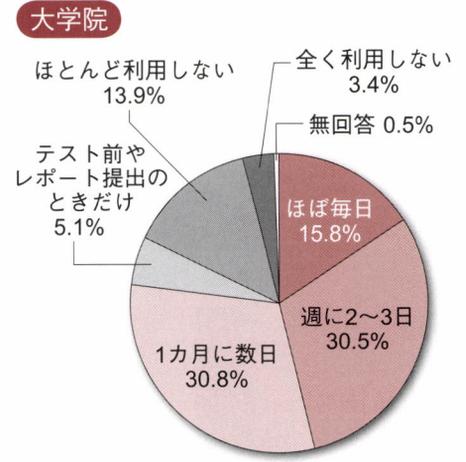
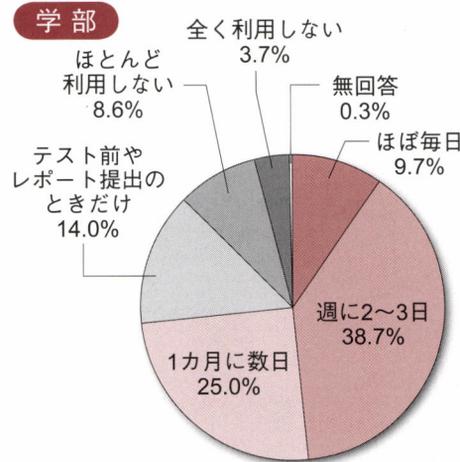
「ほぼ毎日」、「週に2~3日」の合計

学部学生 **48.4%** 大学院学生 **46.3%**

学部学生・大学院学生とも、図書館・学生読書室の利用に関して「ほぼ毎日」、「週に2~3日」と答えた比率は5割弱です。あまり高い値ではありません。

グラフには示していませんが、学年別に見てみると、1年生の利用率が若干高くなっていました。また、文系の学生の利用率の方が高くなっていました。理系の学生の場合は、高学年や大学院になれば、研究室などのように自分の場

### 大学の図書館・学生読書室をどの程度利用していますか？



所ができますから、図書室や学生読書室の利用率が減少するのでしょうか。

## コラム

### 出席率

経年変化として一目りょう然なのは、学生の授業の出席率が毎年コンスタントに増加していることです。本年度では実に約6割が「90~100%」出席していると答えています。出席率が「50%未満」も過去5年で最低の2.8%となっています。大学が取り組んでいる教育改革が、学生の授業への関心を引きつけ、結果的に出席率が高まっていると言えそうです。

